

地域定住促進に向けた「地域生活価値」を構成する
要因と構造の分析

Analysis on structure and factors for value of
regional life in rural community which encourages
settlement

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
建築研究本部

Building Research Department

Local Independent Administrative Agency Hokkaido Research Organization

概要 Abstract

地域定住促進に向けた「地域生活価値」を構成する要因と構造の分析 Analysis on structure and factors for value of regional life in rural community which encourages settlement

牛島 健¹⁾、馬場 麻衣²⁾、岡村 篤³⁾

Ken Ushijima¹⁾, Mai Baba²⁾, Atsushi Okamura³⁾

キーワード : 地域生活価値、地域定住促進、共分散構造分析

Keywords : value of regional life, encouraging settlement, structural equation modeling

1. 研究概要

1) 研究の背景

- ・今後も人口減少が進行する北海道の農山漁村において、限りある行政コストの中で一定の生活利便性を確保していくためには、集落再編の議論は避けられない課題となっている。その際、ある地域では定住を促進し、ある地域では移転・集住化を促進することも考えなければならないが、一方で、その地域に暮らす人々の立場からすれば、各々が何らかの形で『その地域で暮らすことの価値』（「地域生活価値」と呼ぶ）を感じてその地域に住み続けているはずである。集落再編を進める上で、まずこの「地域生活価値」を適切にとらえて見える化し、地域生活価値を低下させない移転・集住化対策、地域生活価値をさらに高める定住化促進対策を効果的に行っていく必要がある。
- ・生活者が「その地域に住み続けたい」と感じる要因としては、生活利便性のように明確な便益として説明できる部分の他に、経済性だけでは説明できない要因が存在し、その影響は無視することができない。また、こうした人間の意思決定や実感にかかる要因は、単一の因果関係では十分に説明できない場合が多く、何らかの構造（もしくはプロセス）を想定する必要があることがわかっている。
- ・以上のことから、集落再編の議論を行う上では、総合的な視点から「地域生活価値」をとらえ、各要因の関係の「構造」として理解することが望まれる。

2) 研究の目的

- ・本研究では、モデル地域においてケーススタディを行い、「地域生活価値」を構成する要因とそれらの関係の構造を明らかにする。

2. 研究内容

1) 既往成果と現地調査に基づく「地域生活価値」構造の仮説構築（H28年度）

- ・ねらい：「地域生活価値」を構成する要因とそれらの関係構造の仮説を構築する。
- ・試験項目等：幅広い分野を含めた既往文献のレビューとサンプル世帯（富良野市を想定）に対する聞き取り調査から、「地域生活価値」の要因を調べ、さらにそれらの間の因果関係の構造について仮説を構築する。

2) 「地域生活価値」の構造の解明（H28～29年度）

- ・ねらい：1) で構築した構造の仮説をアンケートと共分散構造分析によって検証する。
- ・試験項目等：1) で構築した構造の仮説を、共分散構造分析によって調べるためのアンケートを設計し、

¹⁾ 地域研究部地域システムG主査（資源循環） ²⁾ 地域研究部地域システムG研究主任 ³⁾ 地域研究部環境防災G研究職員

¹⁾ Chief of Resource-Oriented System ²⁾ Researcher of Regional System Group ³⁾ Disaster Prevention and Environment Group

実施する（富良野市を想定）。そのアンケート結果を、共分散構造分析にかけ、モデル地域での「地域生活価値」の構造を明らかにする。

3. 研究成果

1) 既往成果と現地調査に基づく「地域生活価値」構造の仮説構築（H28年度）

- ・文献レビューから：生活に関わる価値の定量化に関する研究が世界中で行われているものの、決定的な定量化指標は開発されていないことがわかった。
- ・南富良野町で地域活性化活動を行っている NPO 及び深川市納内地区の連合町内会長に聞き取り調査を実施し、地域生活価値には利便性以外の要因が影響していることなどを確認した。
- ・以上を踏まえ、既往のアンケート結果等も参考に、地域生活価値に影響する要因とそれらの関係構造の仮説を構築した。

2) 「地域生活価値」の構造の解明（H28～29年度）

- ・1)で構築した仮説に基づき、富良野市および南富良野町においてアンケートを実施した（表1）。得られたデータを用いて、仮説モデルの共分散構造分析を試みたが、計算が収束せず、仮説モデルは棄却された。
- ・仮説モデルを改良するため、ロジスティック回帰分析モデル（説明変数は「住み続け意向」で代用）を用いて、観測変数の候補の絞り込みを行った（表2）。
- ・いくつかの改良仮説モデルで共分散構造分析を行い、最終的にすべてのパスが有意（10%水準）でかつモデル適合度も許容範囲に入るモデルが得られた（図1～2）。これらのモデルでは、潜在変数である「地域生活価値」によって高められる観測変数は「地域内互助の居心地」「住み続け意向」「主観的幸福度」「総合的住環境満足度」といった地域の持続性に関わる項目であった。
- ・また、「地域生活価値」を高める因子として「生活環境の客観的要素」「地域内の人間関係」は直接的に、「経済レベル」は間接的に影響することが示された。各要素間の影響の強さ（図中の数値および矢印の太さ）を見ると、「地域生活価値」に対する「地域内の人間関係」の影響は、「生活環境の客観的要素」の影響に比べるとやや小さいものの、一定程度の影響はあると考えられた。

表1 アンケート概要

	富良野市	南富良野町
対象者	成人全員 (市街地居住者を除く)	成人全員
配布数	4,846	1,948
回収数	1,382 (うち有効回答は1,379)	540 (うち有効回答は536)
回収率	28.5%	27.7%
方法	富良野市および南富良野町より郵送配布。同封の返信用封筒にて回収	

表2 ロジスティック回帰分析で絞り込まれた観測変数の候補

	富良野市		南富良野町	
	オッズ比	P 値	オッズ比	P 値
総合的な住環境の満足度	1.4297	p < 0.001**	1.7231	p < 0.001**
地区の中で知っている人	1.3243	0.0193*	1.8023	0.0013**
現在の住宅の性能	1.3042	p < 0.001**	1.3363	0.0054**
性別	0.4868	p < 0.001**	0.3393	p < 0.001**
運転免許有無	1.5777	0.0250*	-	-
付き合いの程度	1.3031	0.0173*	-	-
主観的幸福度(平均)	1.2590	0.0237*	-	-
携帯電話のつながりやすさ	0.8840	0.0357*	-	-
スポーツ趣味娯楽参加	0.8561	0.0175*	-	-
街並みや景観	0.8405	0.0291*	-	-
地区内互助の居心地	-	-	2.1064	p < 0.001**
地区の中で知っている人	-	-	1.8023	0.0013**
娯楽施設への行きやすさ	-	-	1.5324	0.0016**
学校、病院等の公的機関など	-	-	1.4155	0.0235*
通勤のしやすさ(圃場含む)	-	-	0.8183	0.0506
公共交通の便利さ	-	-	0.7603	0.0225*
除雪で助けてもらっている	-	-	0.4806	0.0057**

* : p<0.05 ** : p<0.01

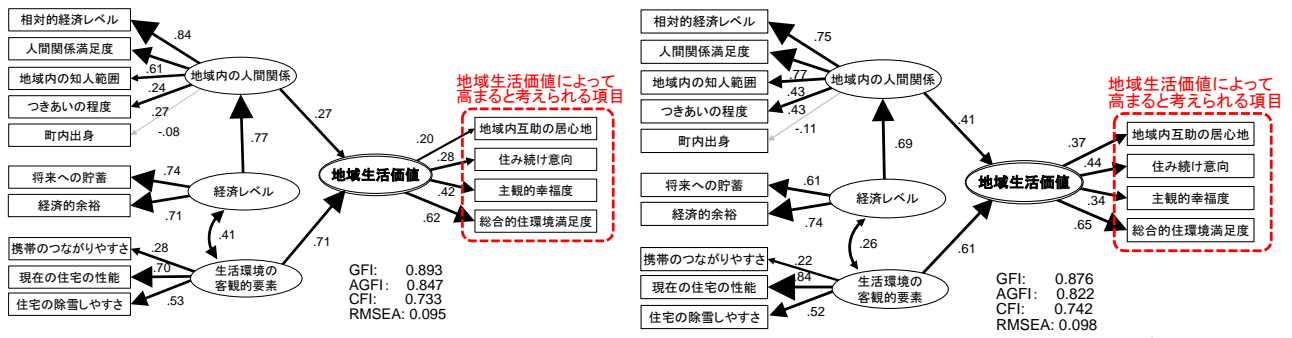


図1 地域生活価値の共分散構造モデル（富良野市） 図2 地域生活価値の共分散構造モデル（南富良野町）

4. 今後の見通し

- ・戦略研究／地域関連の集落評価手法の一つとして「地域生活価値」の概念を活用できる。ただし、本研究では「地域生活価値」を直接的にスコア化するような解析は行っていないため、スコア化が可能な指標である「主観的幸福度」や「住み続け意向」などの結果を解釈する際に用いる。
- ・共分散構造分析により、回答者全員の共通特性を説明するモデルとして上記の結果が得られたが、一方で、個人に対する聞き取り調査で見られた「地域で多様な役割を受け持つことによって得られる幸福感」や「無形の対価のやりとりにより得られる幸福感」などの要素は、統計分析上は有意な関係として示されなかった。「地域生活価値」を集落の評価手法として扱う際には、統計分析に加えて、地域における個人の役割や無形の対価のやりとりなどを可視化する「ひと・もの・価値フロー図」等の手法と組み合わせる必要があると考えられる。

目 次

1. 研究の背景と目的	1
2. 既往研究と現地調査に基づく「地域生活価値」構造の仮説構築.....	1
(1) 既往研究からみた「地域生活価値」	1
(2) 現地聞き取り調査結果からみた「地域生活価値」	3
(3) 「地域生活価値」構造の仮説構築	5
3. 「地域生活価値」の構造の解明	5
(1) アンケートの実施と仮説の検証	5
(2) 定住意向を構成する要因の分析	6
(3) 「地域生活価値」構造の分析	7
4. まとめ.....	11
付録.....	13

1. 研究の背景と目的

今後も人口減少が進行する北海道の農山漁村において、限りある行政コストの中で一定の生活利便性を確保していくためには、集落再編の議論は避けられない課題となっている。その際、ある地域では定住を促進し、ある地域では移転・集約化を促進することも考えなければならないが、一方で、その地域に暮らす人々の立場からすれば、各々が何らかの形で『その地域で暮らすことの価値』（「地域生活価値」と呼ぶ）を感じてその地域に住み続けているはずである。集落再編を進める上で、まずこの「地域生活価値」を適切にとらえて見える化し、地域生活価値を低下させない移転・集約化対策、地域生活価値をさらに高める定住化促進対策を効果的に行っていく必要がある。

生活者が「その地域に住み続けたい」と感じる要因としては、生活利便性のように明確な便益として説明できる部分の他に、経済性だけでは説明できない要因が存在し、その影響は無視することができない。また、こうした人間の意思決定や実感にかかる要因は、単一の因果関係では十分に説明できない場合が多く、何らかの構造（もしくはプロセス）を想定する必要があることがわかっている¹⁾。

以上のことから、集落再編の議論を行う上では、総合的な視点から「地域生活価値」をとらえ、各要因の関係の「構造」として理解することが望まれる。そこで本研究では、モデル地域においてケーススタディを行い、そこでの「地域生活価値」を構成する要因とそれらの関係の構造を明らかにする。

2. 既往成果と現地調査に基づく「地域生活価値」構造の仮説構築

（1）既往文献からみた「地域生活価値」

1) 豊かさや幸福度を表現する指標

もっともシンプルで広く使われている指標としては、国民総生産（GDP）およびGDPを人口で割った「一人当たりGDP」があげられる。経済面での豊かさに限定すれば、的確な指標として評価されており、現在も国際比較等で広く使われている。しかし、豊かさや幸福度を経済指標だけで評価することに対する批判は古くからあり、また、GDPが一定レベルを超えると幸福度が頭打ちになるという経験則^{註1)}も知られている。

こうした背景から、経済指標だけでなく非経済的側面を取り込んだ複合的な指標が、ここ10～20年ほどの間に各国または国際機関等によってつくられている²⁾。代表的なものとしては、国際連合（UN）が採用している「人間開発指標（Human development Index, HDI）³⁾」、OECDが10年近くかけて作成した「Better Life Index」⁴⁾、ブータン国の国民総幸福（Gross National Happiness）⁵⁾などがあげられる。日本国内でも、内閣府の有識者研究会「幸福度に関する研究会」によって幸福度の指標が提案されている⁶⁾。

こうした種々の指標のうち、人間開発指標は統計データに基づく定量化の方法がUNによって定められ、国際比較なども行われているが、その他の指標はスコア化されていたとしても単純な比較ができないものも多い。中でも特徴的なのは、OECDのBetter Life Indexであり、各要素の重みづけは評価者が行うことになっているため、ある特定の評価者の文脈においては国際比較等が可能であるものの、スコアは文脈に応じて可変となる³⁾。

また、医学・公衆衛生学の分野では、慢性的な疾患を持つ患者がどれだけ人間的で豊かな生活を送れるかを総合的に評価する指標として、生活の質（Quality of Life: QOL）の指標化が進められてきた⁷⁾。生活の質の概念そのものは、古代ギリシャのアリストテレスまでさかのぼるといわれるが、定量化された指標としては、主に第二次世界大戦後の医学/公衆衛生学分野で開発された⁸⁾。今日までにQOL評価法は様々な存在するが、中でも世界保健機構（WHO）が開発したWHOQOL質問票のシリーズは、当初から世界中の多くの国や地域の住民への適用性を考えて開発・検証をされており、一つの質問票が多くの国の言語に翻訳され使われている⁹⁾。

一方で、幸福度を直接的に自己評価してもらう「主観的幸福度」も様々な調査方法が提案されている。広く使われている代表的なものとしてはLyubomirskyの主観的幸福度があげられる¹⁰⁾（図1）。

次の文章について、それぞれ 1～7 の段階で表したとき、あなたにもっともふさわしいと思う数字を1つ選んで○をつけてください。

「全般的にみて、わたしは自分のことを()であると考えている」

非常に不幸な人間 ← 1 2 3 4 5 6 7 → 非常に幸福な人間

「わたしは、自分と同年輩の人と比べて、自分を()であると考えている」

より不幸な人間 ← 1 2 3 4 5 6 7 → より幸福な人間

「全般的にみて、非常に幸福な人たちがいます。この人たちは、どんな状況のなかでも、そこで最良のものを見つけて、人生を楽しむ人たちは。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっていますか？」

まったくない ← 1 2 3 4 5 6 7 → とてもある

「全般的にみて、非常に不幸な人たちがいます。この人たちは、うつ状態にあるわけではないのに、はたから考えるよりも、まったく幸せではないようです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっていますか？」

まったくない ← 1 2 3 4 5 6 7 → とてもある

図1 Lyubomirsky の主観的幸福度を構成する4つの質問

以上のように、豊かさや幸福度に関する指標は様々存在するが、(1)対象、(2)構成要素、(3)定量化の程度がそれぞれかなり異なるものが様々混在していると言える。

2) 豊かさや幸福に影響する要因

何が人を幸せに(豊かに)するのかといった豊かさや幸福度の要因についても、さまざまな議論がある。1)で示した様々な指標も、これらの議論を踏まえて指標を構成するパラメータを選択している。

先に述べたとおり、GDPは経済的な豊かさが人の幸福度に大きく影響するということが前提となっている。経済的側面以外の要因も含めたものでは、人間開発指標(HDI)は、保健、教育、所得という人間開発の3つの側面に着目して指標化しており³⁾、内閣府の幸福度指標では「経済社会状況」、「健康」、「関係性」の3つを柱に指標化を行っている⁶⁾。パラメータの重みづけを評価者が行うOECDのBetter Life Indexでは、重みづけをするパラメータは「物質面での生活水準」「生活の質」「持続可能性」の3つが柱となっている⁴⁾。ブータンのGNHは、「心理的な幸福」「国民の健康」「教育」「文化の多様性」「地域の活力」「環境の多様性と活力」「時間の使い方とバランス」「生活水準・所得」「よき統治」の9つのドメインに属する合計33の指標で構成されている⁵⁾。WHOQOLシリーズでも広く使われるWHOQOL-BREF質問票は、「身体的領域」「心理的領域」「社会的関係」「環境」「総合」の5つのドメインに属する26の質問によって構成される⁹⁾。

以上は、対象や定量化の程度も大きく異なるものが含まれるため、単純に整理はできないが、大まかには、「物質的な豊かさ・環境」「経済的側面」「教育・心理的側面」「健康」「社会的側面」といった点が最大公約数と言えそうである。なお、「社会的側面」については、ソーシャルキャピタルとして一括して扱われることも多い。ソーシャルキャピタルは、「調整された諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織」であり「使うと増え、使

わないと減る、そう心得るべき」資本¹¹⁾とされる。ソーシャルキャピタル指数の高い地域では殺人数や自殺数が少ないとする統計解析結果が国内外で示されているが、一方で、その多くは人口規模の影響による「見せかけの相関」であるという批判もある。

幸福度と似た概念で、満足度も様々な場面で使用される。幸福度と満足度は関連してはいるものの、必ずしも一致しないと言われている¹²⁾。山内⁸⁾は、「(国際)開発と地域住民の幸福」という観点から、幸福 (Happiness) を主観的・個人的な指標であるとして、QOLで表現し、福祉 (well-being) を客観的・社会的な指標として、ベーシックヒューマンニーズ (BHN) によって表現することを提案している。そして、従前の国際開発はおもにBHNの充足に重きを置いていたが、QOLの向上を目指した国際開発へのシフトが重要と説いている。

一方、主観的幸福度指標は、直接的に幸福度の自己評価を聞くものであり、「幸福度を高める要因は何か」の問いに直接答えるものではないが、Lyubomirskyの主観的幸福度¹⁰⁾は、絶対評価と相対評価を組み合わせた4つの質問で構成されている点は無視できない(図1)。人が相対的な関係性の中で幸福を感じたり、価値を感じたりしているということは、地位財と非地位財という経済学の概念¹³⁾によって整理することができる。他人との比較優位により初めて価値の生まれるものが地位財(所得、社会的地位、車、家、高級時計など)、他人が持っているかに関係なく、それ自体に価値があるものを非地位財(趣味、自己実現、愛情、健康、自由、良質な環境)と言ひ、地位財は他者との関係の中でどこまでいっても満たされない可能性があるのに対し、非地位財はある意味本人の捉え方次第でその人を幸福にも不幸にもする。

このほかにも、幸福度および豊かさに関する定性的な議論もしくは断片的な知見は、極めて多く存在する。このうち、本研究の問いに直接関連する「経済的豊かさだけで人は幸福感を得ているわけではない」という観点到絞っていくつか例を挙げると、たとえば、先に触れた、GDPが上昇しても幸福度は一定の所で頭打ちになるという経験則について、Dienerら¹⁴⁾はこの現象を「所得水準が上昇すれば人生の些細な喜びを楽しむ能力が低下することによる」と指摘している。シューマッハー¹⁵⁾が提唱した仏教経済学においては、利益最大化を追求することの限界を指摘し「利益最大化を目指すのではなく、足るを知る経済」の重要性を説いている^{16) 17)}。また、心理学の分野では、与えられるより与える喜びの方が大きいことは実験で確認されており¹⁸⁾、「寄付」の心理についても多くの研究がなされている¹⁹⁾。

3) 地域生活価値

本研究では、地域生活価値を、個人が感じている「その地域で暮らすことの価値」と定義する。都会にせよ田舎にせよ、人々はその暮らしに何らかの豊かさや幸福を感じたり、もしくは逆に貧しさや不幸を感じたりする。しかし、都会の豊かさは、利便性や平均収入など比較的わかりやすい指標で表現できるものが多いのに対し、田舎の豊かさは指標化しにくいものが多い。そのため、いわゆる「不便な田舎」に住む人を、ともすれば「物好きな人」としか解釈できない状況が見られる。しかし、既往の研究をみても、経済指標だけでは不十分なことは指摘されており、人々が幸福や豊かさを感じるしくみも、単純ではないことが分かっている。よって本研究では、地域生活価値を複数の要因によって規定される複合指標と仮定し、その要因を調べる。また、地域生活価値は直接的に質問することが難しい指標であると考えられるため、分析の中では関連するいくつかの観測変数に関連付けられた潜在因子として扱うこととした。

(2) 現地聞き取り調査結果からみた「地域生活価値」

ここでは、平成27年度研究開発推進費(「ひと・もの」のフロー)と「生活の質」からみた地域生活価値の要因解明)において実施した連合町内会長への聞き取り調査の結果、および本研究において実施した追加調査をもとに、定性的な情報から地域生活価値の要因を検討する。一連の調査では、聞き取り対象者にかかわる価値のやりとりを、「ひと・もの・価値フロー図」としてまとめた(例として

(3) 「地域生活価値」構造の仮説構築

文献調査および現地聞き取り調査の結果から、本研究では、図4に示すような仮説を構築した。図中の楕円で示した項目は、直接観測できない潜在因子、四角で示した項目は直接観測することが可能な観測変数を示している。矢印は因子間の因果関係を示す。この仮説では、「地域生活価値」は潜在因子の一つとして設定し、「地域生活価値」に直接関与する潜在因子として「主観的満足度」「客観的住環境」を、間接的に影響する潜在因子として「ソーシャルキャピタル」「客観的利便性」「客観的住環境」「健康」を設定した。

また、「地域生活価値」を規定する観測変数としては「主観的幸福度」と「住み続け意向」を設定した。これらの因果関係は、矢印の向きが示す通り、「地域生活価値」という潜在因子が高まることで、観測可能な事象としては「主観的幸福度」と「住み続け意向」が高まることを意味する。なお、生活の質（WHOQOL）については、それ自体が複合指標であり他のパラメータと独立した変数として扱えないこと、また質問数が多く、今回のアンケートに組み込むことが難しいと判断されたことから、この後の解析では扱わなかった。

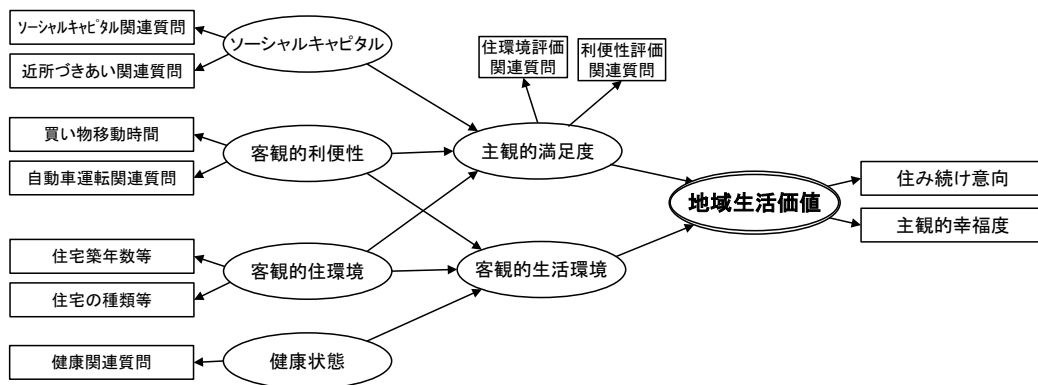


図4 地域生活価値の構造の仮説

3. 「地域生活価値」の構造の解明

(1) アンケートの実施と仮説の検証

富良野市および南富良野町においてアンケート調査を実施した(表1)。回収率は富良野市で28.5%、南富良野町で27.7%であった。ただし、統計分析を実施するにあたり、欠損データがある回答票を除外する必要があったため、最終的に分析に用いたデータ数は表2に示すとおりであった。このデータを用いて、図4の仮説の検証を共分散構造分析(SPSS Amos24を使用)によって試みたが、計算が収束せず、仮説は棄却された。

表1 アンケート概要

	富良野市	南富良野町
対象者	成人全員 (市街地居住者を除く)	成人全員
配布部数	4,846	1,948
回収部数	1,382	540
回収率	28.5%	27.7%
配布方法	個人宛の郵送	
配布時期	2018年2月初旬	
回収方法	返信用封筒による郵送	
回収時期	2018年2月(配布から約2週間後)	

表2 統計分析に使用したデータ数

	富良野市	南富良野町
男性	484	204
女性	441	217

(2) 定住意向を構成する要因の分析

1) 方法

仮説モデルの改良を行うにあたり、説明変数の再検討を行うためにロジスティック回帰分析（エクセル統計 2.02 を使用）を行った。ロジスティック回帰分析では、潜在変数である「地域生活価値」を目的変数にすることができないため、ここでは、地域生活価値と直接的に関わる要素として「住み続け意向」を目的変数として代用した。表 3 に示す 70 項目を説明変数の候補として、増減法 ($p < 0.05$) により説明変数の絞り込みを行った。

表 3 住み続け意向に対する説明変数の候補

01. 性別	36. 子供を一時的に預かること(している)
02. 年齢	37. 除雪(している)
03. 町内出身か町外出身か	38. その他助け合い(している)
04. 世帯人数	39. お年寄りや子供への声かけや見守り(してもらっている)
05. 健康状態	40. おすそわけ(してもらっている)
06. 運転免許の有無	41. ものの貸し借り(してもらっている)
07. 自動車の有無	42. 子供を一時的に預かること(してもらっている)
08. 自動車の運転頻度	43. 除雪(してもらっている)
09. 自動車の運転困難度	44. その他助け合い(してもらっている)
10. 住宅の築年数	45. 地区内の助け合いがあなたにとって必要か?
11. 現在の住宅性能(満足度)	46. 地区内の助け合いが居心地の良い関係か?
12. 除雪のしやすさ(満足度)	47. 地区内の助け合いが地域にとって必要か?
13. 水道(満足度)	48. 地縁的な活動に参加している
14. 下水道/浄化槽等の排水処理(満足度)	49. スポーツ・趣味・娯楽活動に参加している
15. ごみ収集・処理(満足度)	50. ボランティア・NPO・市民活動に参加している
16. インターネット環境(満足度)	51. その他の団体・活動に参加している
17. 携帯電話のつながりやすさ(満足度)	52. 「地縁団体」「地縁活動」は盛んだと感じるか?
18. 公共交通の便利さ(満足度)	53. 頼りになるのは家族
19. 街並みや景観(満足度)	54. 頼りになるのは親戚
20. 防犯や安全性(満足度)	55. 頼りになるのは友人・知人
21. 自然を生かした活動のしやすさ(満足度)	56. 頼りになるのは近所の人々
22. 公園など子供の遊び場(満足度)	57. 頼りになるのは仕事の同僚・同業者など
23. におい環境(満足度)	58. 頼りになるのは勤務先(会社など)
24. 公的施設や商店などへのアクセス(満足度)	59. 頼りになるのは市役所・町役場など
25. 学校や幼稚園・保育所へのアクセス(満足度)	60. 頼りになるのは学校、病院等の公的機関など
26. 通院のしやすさ(満足度)	61. 頼りになるのは警察や交番など
27. 娯楽施設への行きやすさ(満足度)	62. 頼りになるのは自治会などの地縁団体
28. 通勤しやすさ/圃場の通いやすさ(満足度)	63. 頼りになるのはボランティア・NPO、市民活動の団体
29. 総合的な住環境の満足度	64. 日々暮らしていくのに困るほどお金が足りない
30. 地区内のつきあいの程度	65. 趣味や娯楽、生涯学習等にお金を費やすことができる
31. 地区の中で知っている人の範囲	66. 将来に備えた十分な貯蓄がある
32. ちょっとした助け合いに対する感覚	67. 様々な地区活動の中で自分が果たしている役割の高さ
33. お年寄りや子供への声かけや見守り(している)	68. 自分と地区の人たちとの人間関係に対する満足度
34. おすそわけ(している)	69. 地区の人々と比べたときの自分の経済レベル
35. ものの貸し借り(している)	70. 主観的幸福度(4 質問の平均)

2) 結果と考察

ロジスティック回帰分析により、富良野市、南富良野町に共通して、「性別」「現在の住宅の性能」「総合的な住環境満足度」「地区内の知人の範囲」が「住み続け意向」に対して有意に影響することが示された(表4)。また、富良野市、南富良野町のいずれか一方のみで有意な関係と考えられた項目も、大まかに、①地域の間関係に関わる項目(富良野市で有意であった「付き合いの程度」、南富良野町で有意であった「地区内互助の居心地」「地区の中で知っている人の範囲」「除雪で助けてもらっている」と②利便性や周辺環境に関する項目(富良野市で有意であった「運転免許の有無」「携帯電話のつながりやすさ」「街並みや景観」、南富良野町で有意であった「娯楽施設への行きやすさ」「学校、病院等への行きやすさ」「通勤のしやすさ」「公共交通の便利さ」)が説明変数の候補として残ったと考えられる。

表4 ロジスティック回帰分析結果

	富良野市		南富良野町	
	オッズ比	P 値	オッズ比	P 値
総合的な住環境の満足度	1.4297	p < 0.001**	1.7231	p < 0.001**
地区の中で知っている人	1.3243	0.0193*	1.8023	0.0013**
現在の住宅の性能	1.3042	p < 0.001**	1.3363	0.0054**
性別	0.4868	p < 0.001**	0.3393	p < 0.001**
運転免許の有無	1.5777	0.0250*	-	-
付き合いの程度	1.3031	0.0173*	-	-
主観的幸福度(平均)	1.2590	0.0237*	-	-
携帯電話のつながりやすさ	0.8840	0.0357*	-	-
スポーツ趣味娯楽参加	0.8561	0.0175*	-	-
街並みや景観	0.8405	0.0291*	-	-
地区内互助の居心地	-	-	2.1064	p < 0.001**
地区の中で知っている人の範囲	-	-	1.8023	0.0013**
娯楽施設への行きやすさ	-	-	1.5324	0.0016**
学校、病院等への行きやすさ	-	-	1.4155	0.0235*
通勤のしやすさ(圃場含む)	-	-	0.8183	0.0506
公共交通の便利さ	-	-	0.7603	0.0225*
除雪で助けてもらっている	-	-	0.4806	0.0057**

* : p<0.05 ** : p<0.01

(3) 「地域生活価値」構造の分析

1) 方法

ロジスティック回帰モデルを用いたパラメータの絞り込みの結果を踏まえて、いくつかの共分散構造分析の改良仮説モデルを作成し、検証した。なお、属性によってモデルが異なる可能性も考慮し、分析は「富良野市」と「南富良野町」、「男性」と「女性」で分けて行った。サンプルサイズを確保するため、性別で分ける際には富良野市と南富良野町のデータを合わせて分析を行った。分析には IBM SPSS Amos version 24 を使用した。

2) 結果と考察(富良野市と南富良野町)

まず、最もサンプル数の多い富良野市のデータを用いていくつかの改良仮説モデルで共分散構造分析を行った。その結果、図5に示すモデルにおいて、すべてのパスが5%水準で有意となり、モデル適合度も GFI=0.893、AGFI=0.847、CFI=0.733、RMSEA=0.095 でいずれも許容範囲内と考えられた(図6)。同じモデルを、南富良野町のデータでも検証したところ、すべてのパスが10%水準で有意となり、モデル適合度も GFI=0.876、AGFI=0.822、CFI=0.742、RMSEA=0.098 でいずれも許容範囲内と考えられた(図7)。

このモデルでは、潜在変数である「地域生活価値」によって高められる観測変数は「地区内互助の居心地」「住み続け意向」「主観的幸福度」「総合的な住環境満足度」といった地域の持続性に関わる項目であった。なお、図中の両方向矢印は、因果関係ではなく相関関係を表現している。

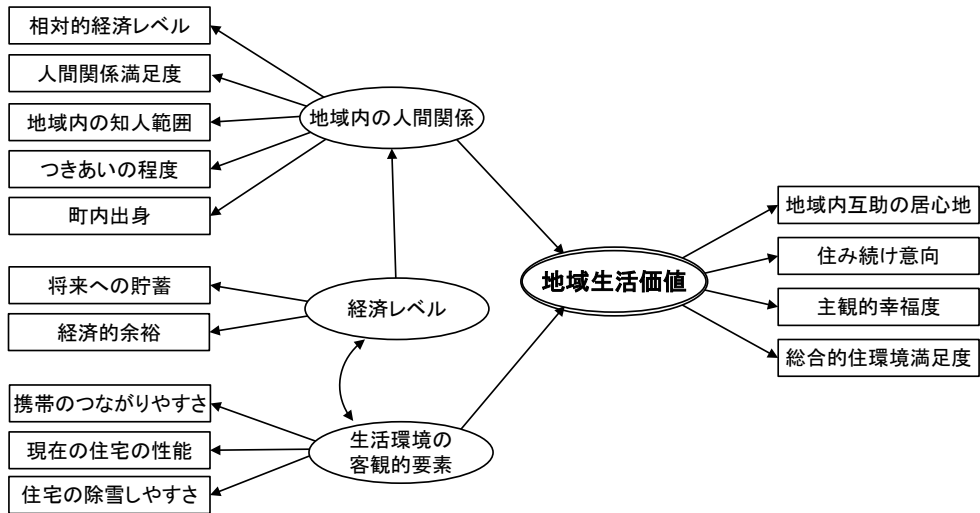


図5 「地域生活価値」構造の修正版仮説モデル

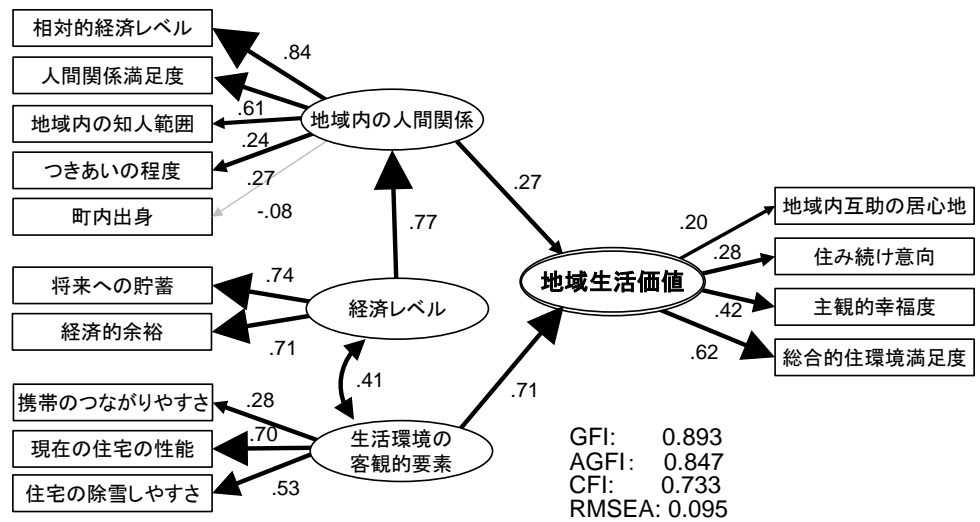


図6 「地域生活価値」構造修正版モデルの分析結果（富良野市）

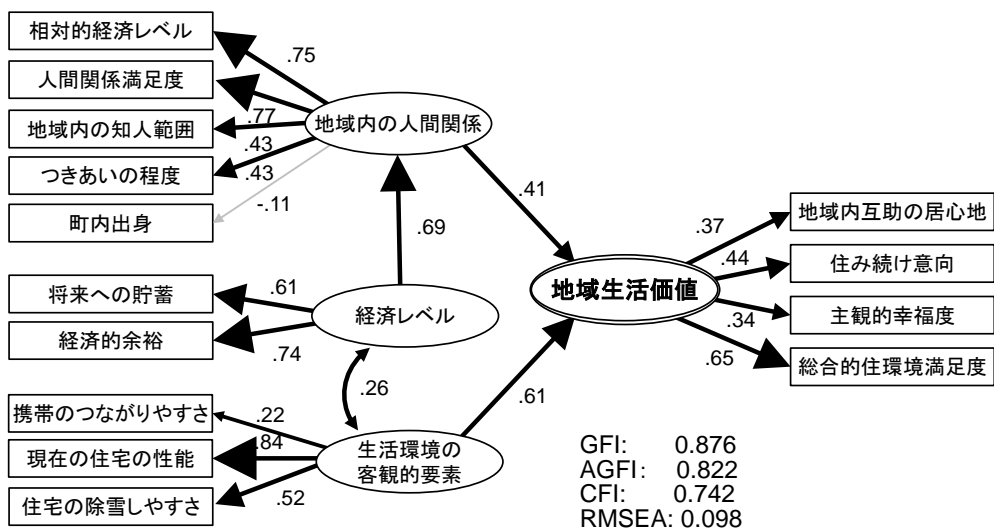


図7 「地域生活価値」構造修正版モデルの分析結果（南富良野町）

また、「地域生活価値」を高める因子として「生活環境の客観的要素」「地域内の人間関係」は直接的に、「経済レベル」は間接的に影響することが示された。各要素間の影響の強さ（パス係数：図中の数値および矢印の太さとして表示）を見ると、「地域生活価値」に対する「地域内の人間関係」の影響は、富良野市で0.27、南富良野町で0.41となっており、「生活環境の客観的要素」の影響に比べるとやや小さいものの、一定の影響はあると考えられた。また、その影響は南富良野町でより強く表れていることが示唆された。

一方、「地域内の人間関係」と各観測変数の関係性をみると、富良野市も南富良野町も、「人間関係満足度」と「相対的経済レベル」への影響が大きいことがわかる。そして、南富良野町では「地域内の知人の範囲」と「つきあいの程度」への影響も比較的大きい傾向が見られた。

3) 結果と考察（男性と女性）

2)と同じモデルを用いて、「男性」のデータ、「女性」のデータで共分散構造分析を行った結果、「男性」のデータではすべてのパスが5%水準で有意となり、モデル適合度もGFI=0.891、AGFI=0.843、CFI=0.730、RMSEA=0.096でいずれも許容範囲内と考えられたが（図8）、「女性」のデータでは「地域内の人間関係」から「町内出身」へのパスの確率が10%水準に満たなかった。

そこで、再度、男性と女性で別々にロジスティック回帰モデルのパラメータ絞り込みを行ったところ、「町内出身」は男性のみでパラメータ候補として残り、「運転免許の有無」が女性の「住み続け意向」に強く影響すると考えられた（表5）。そこで、女性の共分散構造モデルについて「町内出身」を削除し、「運転免許の有無」を追加した結果、いずれのパスも5%水準で有意となり、モデル適合度もGFI=0.879、AGFI=0.826、CFI=0.721、RMSEA=0.098でいずれも許容範囲内と考えられた（図9）。

男性と女性で違うモデルとなったが、構造が共通する「地域内の人間関係」から「地域生活価値」へのパスをみると、パス係数は男性0.55、女性で0.29となっており、男性の地域生活価値の方が人間関係の影響をより強く受けていることが示唆された。

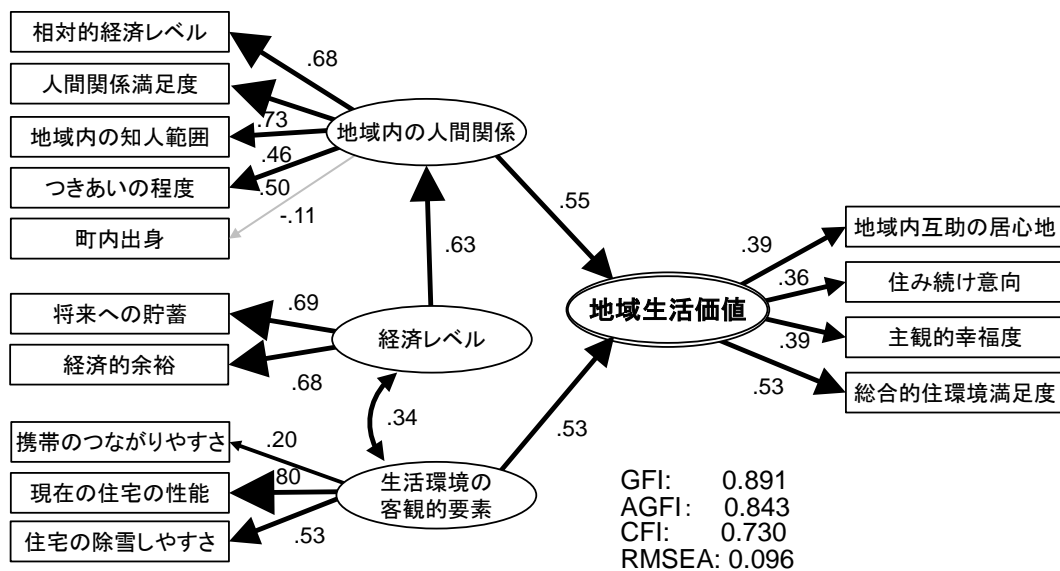


図8 「地域生活価値」構造修正版モデルの分析結果（男性）

表5 ロジスティック回帰分析結果（男女別）

	女性		男性	
	オッズ比	P値	オッズ比	P値
現在の住宅の性能	1.3101	p < 0.001**	1.2508	0.0032**
携帯電話のつながりやすさ	0.8935	0.0653	0.8103	0.0021**
総合的な住環境の満足度	1.3516	p < 0.001**	1.6394	p < 0.001**
地区の中で知っている人	1.4384	0.0025**	-	-
運転免許有無	0.3823	p < 0.001**	-	-
付き合いの程度	-	-	1.4364	0.0045**
地区内互助の居心地	-	-	1.3142	0.0417*
出身地	-	-	0.6526	0.0232*

* : p<0.05 ** : p<0.01

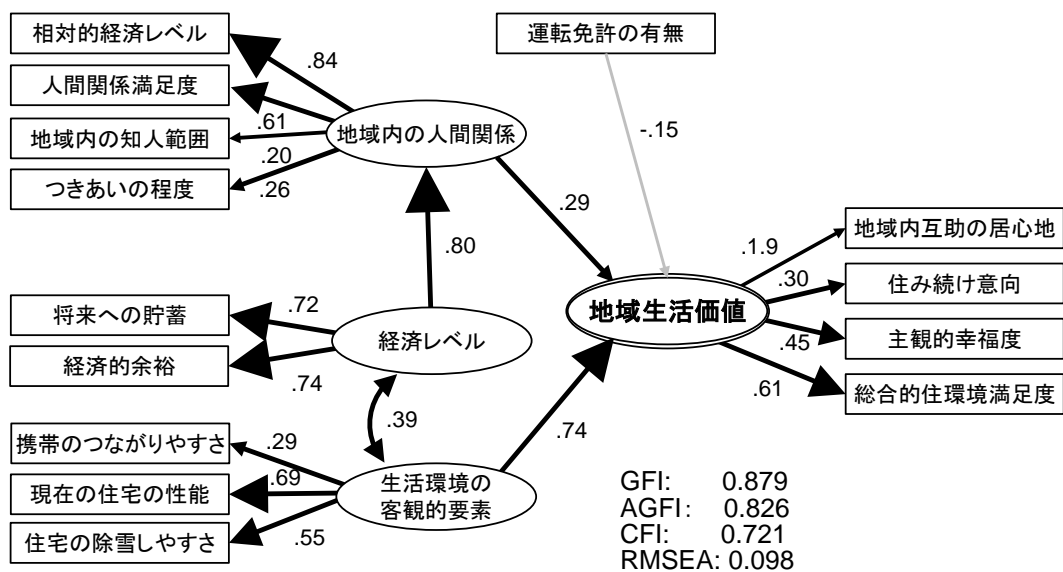


図9 「地域生活価値」構造修正版モデルの分析結果（女性）

4) 地域生活価値についての考察

以上、4つのモデルによる地域生活価値構造の結果から考えられたことは、以下のとおりである。

- ①生活環境の客観的要因がもっとも強く影響する
- ②地域内の人間関係も一定程度、直接的に影響を与える
- ②地域内の人間関係による影響の強さは、市町村によって異なる場合がある
- ③地域内の人間関係による影響は、男性の方が強く受ける
- ④経済レベルは間接的な影響を与える

共分散構造分析の性質上、分析結果からこれらの原因を掘り下げて考えることは難しいが、既往研究レビューの結果も踏まえてこの結果を解釈し、地域定住促進に向けた対策との関係で考察するならば、次のようなことが考えられる。まず、地域生活価値を高める上で、利便性や効率性といった生活環境の客観的要素の向上は基本的な対策となりうる。また、生活環境の客観的要素を高める対策は、多くの場合、経済レベル向上のための対策とも深く関係すると考えられる。この結果は、客観的な基盤を向上させていくことで地域定住促進を目指す対策が従来から行われており、一定の成果を上げていることとも整合する。一方で、現実の対策の場面においても、客観的な基盤の整備だけでは不十分であることは知られており、そこに対応する部分が、地域内の人間関係を高める対策と言えるかもしれない。そして、この構図は、山内⁸⁾の主張する国際開発におけるベーシック・ヒューマンニーズと生活の質の関係にも似ている。

以上、客観的な基盤整備と地域内の人間関係という 2 つの要素の視点から地域定住施策を考えた場合、一般にハード整備や経済レベル向上に関わる客観的な基盤整備のための対策にはそれなりの予算が必要であり、無尽蔵に行えるものではない。一方で、人間関係側の対策は、手間と時間がかかることが課題ではあるが、やり方次第ではあまり予算をかけずに対策を実施し得る領域と言える。本研究の結果に基づくと、限られた予算で最大限の効果を上げるためには、人間関係側の対策を強化していくことでも一定の効果を期待できると考えられる。ただし、期待できる効果の大きさは、少なくとも地域や性別によって異なる可能性が示唆されており、今回扱った 2 つのモデルケースの結果だけで結論を出すことは難しい。

また、本研究では、回答者全員の共通特性を説明するモデルとして共分散構造分析の結果が得られたが、一方で、個人に対する聞き取り調査で見られた「地域で多様な役割を受け持つことによって得られる幸福感」や「無形の対価のやりとりにより得られる幸福感」などの要素は、統計分析上は有意な関係として示されず、変数の絞り込みの過程で外れてしまった。実際の場面において「地域生活価値」を集落の評価手法として扱う際には、統計分析に加えて、地域における個人の役割や無形の対価のやりとりなどを可視化する「ひと・もの・価値フロー図」等の手法と組み合わせて、ケースに合わせて丁寧な解釈と分析を行うことが必要と考えられる。

4. まとめ

本研究では、地域生活価値を、「個人が感じている、その地域で暮らすことの価値」と定義し、モデル地域においてケーススタディを行い、そこでの「地域生活価値」を構成する要因とそれらの関係の構造を明らかにした。

- ・ 既往研究のレビューおよび聞き取り調査の結果から、本研究では、一般に言われる「経済状況」や「利便性」の他に、「地域の中での役割や関わりの多重性と多様性」「貨幣を介さない価値のやりとり」「多様な価値交換のチャンネル」といった要素が「地域生活価値」の向上につながるという仮説を立て、共分散構造分析のモデルを作成した。
- ・ 仮説に基づき、富良野市および南富良野町においてアンケートを実施し、仮説モデルの共分散構造分析を試みたが、計算が収束せず、仮説モデルは棄却された。
- ・ パラメータを再検討するため、より単純なモデルとなるロジスティック回帰分析モデル（説明変数は「住み続け意向」で代用）を用いて、観測変数の候補の絞り込みを行い、仮説モデルを改良した。
- ・ いくつかの改良仮説モデルで共分散構造分析を行い、最終的にいずれのパスも 10%有意でかつモデル適合度も許容範囲に入るモデルが得られた。最終的なモデルでは、潜在変数である「地域生活価値」によって高められる観測変数は「地域内互助の居心地」「住み続け意向」「主観的幸福度」「総合的住環境満足度」といった地域の持続性に関わる項目であった。
- ・ また、「地域生活価値」を高める因子として「生活環境の客観的要素」「地域内の人間関係」は直接的に、「経済レベル」は間接的に影響することが示された。各要素間の影響の強さを見ると、「地域生活価値」に対する「地域内の人間関係」の影響は、「生活環境の客観的要素」の影響に比べるとやや小さいものの、一定程度の影響はあると考えられた。
- ・ 研究の結果に基づくと、実際の対策において、限られた予算で最大限の効果を上げようとする場合に、やり方次第では低予算でも対策がとりうる「人間関係」側の対策を強化していくことでも一定の効果を期待できると考えられた。

本研究では、共分散構造分析により、回答者全員の共通特性を説明するモデルとして上記の結果が得られたが、一方で、個人に対する聞き取り調査で見られた「地域で多様な役割を受け持つことによって得られる幸福感」や「無形の対価のやりとりにより得られる幸福感」などの要素は、統計分析上は有意な関係として示されなかった。この点は、あくまで回答者全員の共通特性をあつかう統計解析

の限界とも言える。今後は、統計分析に加えて、地域における個人の役割や無形の対価のやりとりなどを可視化する「ひと・もの・価値フロー図」等の手法と効果的に組み合わせることで、「地域生活価値」を集落の評価手法の一つとして考えていく。

[参考文献]

- 1) たとえば, 藤井聡: 土木計画のための社会的行動理論—態度追従型計画から態度変容型計画へ—, 土木学会論文集 IV, Vol. 53, No. 688, pp. 19-35, 2001. 10
- 2) 岡部光明: 幸福度等の国別世界順位について: 各種指標の特徴と問題点, 明治学院大学『国際学研究』, Vol. 43, pp. 75-93, 2013. 03
- 3) 国連開発計画 (UNDP): 人間開発報告書 2016 概要版(日本語), 国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所, 2017. 3
- 4) OECD: How's Life?: Measuring well-being, OECD Publishing, 2011.
- 5) Karma Ura, Sabina Alkire, Tshoki Zangmo, Karma Wangdi: A short Guide to Gross National Happiness Index, The Center for Bhutan Studies, 2012.
- 6) 幸福度に関する研究会: 幸福度に関する研究会報告—幸福度指標試案—, 内閣府, 2011. 12
- 7) 土居由利子: 総論—QOL の概念と QOL 研究の重要性, 保健医療科学, Vol. 53, No. 3, 2004
- 8) 山内太郎: 基本的ヒューマン・ニーズの充足から QOL へ, 生活世界からみる新たな人間—環境系 (編・大塚柳太郎, 篠原徹, 松井健), 東京大学出版, pp. 87-111, 2004
- 9) 田崎美弥子, 中根充文: WHO/QOL-26 手引き 改訂版, 金子書房, 2007
- 10) Sonja Lyubomirsky, Heidi S Lepper: A measure of subjective happiness: Preliminary reliability and construct validation, Social Indicators Research, Vol. 46, pp. 137-155, 1999.
- 11) ロバート・D. パットナム: 孤独なボウリング, 柏書房, 2006. 4
- 12) 袖川芳之, 田邊健: 幸福度に関する研究: 経済的ゆたかさは幸福と関係があるのか, 内閣府経済社会総合研究所 Discussion Paper, No. 182, 2007. 5
- 13) ロバート・H. フランク: 幸せとお金の経済学, フォレスト出版, 2017. 10
- 14) Ed Diener, Daniel Kahneman, John Helliwell: International Differences in Well-Being, Oxford University Press, 2010
- 15) エルンスト・F. シューマッハー: スモール イズ ビューティフル, 講談社, 1986 (初版 1973)
- 16) 井上信一: 地球を救う経済学—仏教からの提言, 鈴木出版, 1994
- 17) 安原和雄: 足るを知る経済—仏教思想で作る二十一世紀と日本, 毎日新聞社, 2000
- 18) たとえば, Akinin LB, Hamlin JK, Dunn EW: Giving Leads to Happiness in Young Children, PLoS ONE Vol. 7, No. 6: e39211, 2012. 6
- 19) たとえば, Elizabeth W. Dunn, Lara B. Akinin, and Michael I. Norton: Prosocial Spending and Happiness: Using Money to Benefit Others Pays Off, Current Directions in Psychological Science, Vol 23, No. 1, pp. 41-47, 2014. 2
- 20) Esterlin R.A.: Does Economic Growth Improve the Human Lot? Some Empirical Evidence, Nations and Households in Economic Growth, pp. 89-125, 1974

[注]

注 1)*データに基づく分析としてはEasterlinのパラドクス²⁰⁾が有名であるが、分析方法に対する批判もあり、定説には至っていない。

4-2 あなたの世帯で、雪のない時期と比べて雪のある時期では通院や買物の回数はどのように変化しますか？(それぞれ1つに○)

通院回数	1.減る 2.変わらない 3.増える						
	↓ どうしてですか？ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <tr> <td>1.近くの診療所などに行く</td> <td>2.くすりなどで対応</td> </tr> <tr> <td>3.我慢する</td> <td>4.その他()</td> </tr> </table>	1.近くの診療所などに行く	2.くすりなどで対応	3.我慢する	4.その他()		
1.近くの診療所などに行く	2.くすりなどで対応						
3.我慢する	4.その他()						
買物回数 (生鮮食品)	1.減る 2.変わらない 3.増える						
	↓ どうしてですか？ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <tr> <td>1.近くの店などに行く</td> <td>2.一度に大量に買う</td> </tr> <tr> <td>3.宅配サービス(トドックなど)</td> <td>4.移動販売</td> </tr> <tr> <td>5.その他()</td> <td></td> </tr> </table>	1.近くの店などに行く	2.一度に大量に買う	3.宅配サービス(トドックなど)	4.移動販売	5.その他()	
1.近くの店などに行く	2.一度に大量に買う						
3.宅配サービス(トドックなど)	4.移動販売						
5.その他()							

4-3 あなたの世帯の通勤・通学や、買物、通院等の外出で困っていることについて、雪のない時期とある時期のそれぞれについてお答え下さい。(それぞれ上位3つまでを○)

	雪のない時期に困ること(上位3つまで○)	雪のある時期に困ること(上位3つまで○)
道路環境について	1.運転時の視界の悪さ 2.運転中の滑りやすさ 3.目的地までの所要時間の長さ 4.救急搬送にかかる時間 5.特に困っていない 6.その他()	1.運転時の視界の悪さ 2.運転中の滑りやすさ 3.目的地までの所要時間の長さ 4.救急搬送にかかる時間 5.特に困っていない 6.その他()

	雪のない時期に困ること(上位3つまで○)	雪のある時期に困ること(上位3つまで○)
公共交通について	1.時間がかかる 2.バス停や駅までが遠い 3.バス停や駅での待合い場の環境が悪い 4.乗り継ぎがしにくい 5.バスや鉄道が時間通りに運行されない 6.買物品を公共交通で持って帰るのが大変 7.診察時間がのびると公共交通で帰れない 8.目的地付近にバス停がない 9.特に困っていない 10.その他()	1.時間がかかる 2.バス停や駅までが遠い 3.バス停や駅での待合い場の環境が悪い 4.乗り継ぎがしにくい 5.バスや鉄道が時間通りに運行されない 6.買物品を公共交通で持って帰るのが大変 7.診察時間がのびると公共交通で帰れない 8.目的地付近にバス停がない 9.特に困っていない 10.その他()

困っていることが改善されたら、公共交通を利用しますか？(1つに○)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1.雪のない時期は利用したい | 2.雪のある時期は利用したい |
| 3.通年で利用したい | 4.利用したくない |

4-4 地域の移動手段の確保のため、住民同士の相乗りや、住民が一定のお金(支援金)を出して公共交通を支える取り組みがあります。これらについて、以下の問いにお答え下さい。



相乗り(1つに○)	支援金の使い道(1つに○)
1.雪のない時期での実施に賛成	1.雪のない時期の移動手段確保のために使うべき
2.雪のある時期での実施に賛成	2.雪のある時期の移動手段確保のために使うべき
3.通年での実施に賛成	3.通年での移動手段確保のために使うべき
4.実施に反対	4.実施に反対

2. 住環境について

問5 現在のあなたの住宅についてお答えください。

住宅の建て方(1つに○)	1. 戸建住宅	2. アパート・マンション	3. 長屋建て
住宅の種類(1つに○)	1. 持家	2. 民営の賃貸住宅	3. 公営住宅
	4. 社宅・官公舎	5. その他()	
住宅の築年数	()年		
現在利用している水道の種類(1つに○)	1. 町の水道	2. 組合の水道	3. 数戸で共同
	4. 個人管理	5. その他()	
現在利用している下水道の種類(1つに○)	1. 下水道	2. 合併浄化槽	3. 単独浄化槽
	4. くみ取り	5. その他()	

問6 現在の住環境に関する以下の点について、満足度をお答えください(それぞれ1つに○)

<住宅>	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
現在の住宅の性能(広さ、断熱性、高齢者対応など)	5	4	3	2	1
除雪のしやすさ	5	4	3	2	1

<生活施設>	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
水道	5	4	3	2	1
下水道/浄化槽等の排水処理	5	4	3	2	1
ゴミ収集・処理	5	4	3	2	1
インターネット環境	5	4	3	2	1
携帯電話のつながりやすさ	5	4	3	2	1
公共交通の利便さ	5	4	3	2	1

<周辺環境>	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
街並みや景観	5	4	3	2	1
防犯や安全性	5	4	3	2	1
自然を生かした活動のしやすさ(釣り、スキー、山菜採りなど)	5	4	3	2	1
公園など子供の遊び場	5	4	3	2	1
におい環境(悪臭がしないことなど)	5	4	3	2	1

<利便性>	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
公的施設や商店などへの行きやすさ	5	4	3	2	1
学校や幼稚園・保育所への行きやすさ	5	4	3	2	1
通院のしやすさ	5	4	3	2	1
娯楽施設への行きやすさ	5	4	3	2	1
通勤のしやすさ(圃場への通いやすさ)	5	4	3	2	1

<総合評価>	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
総合的な住環境の満足度	5	4	3	2	1

問10 地区の中のちょっとした助け合いについて、現在のあなたの感覚に最も近いものを1つ選んで○をつけてください。

- | |
|------------------------|
| 1. 助けてもらう一方だ |
| 2. どちらかというと助けてもらうことが多い |
| 3. 持ちつ持たれつだ |
| 4. どちらかというと助けることが多い |
| 5. 助ける一方だ |
| 6. 助け合いに参加していない |

問11 ここ数年の地区内の助け合いの中で、あなたが助ける側として行ったことに○をつけてください。(該当するものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. お年寄りや子供への声かけや見守り | 2. おすそわけ |
| 3. ものの貸し借り | 4. 子供を一時的に預かること |
| 5. 除雪 | 6. その他 () |

問12 ここ数年の地区内の助け合いの中で、あなたが助けてもらう側になったことに○をつけてください。(該当するものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. お年寄りや子供への声かけや見守り | 2. おすそわけ |
| 3. ものの貸し借り | 4. 子供を一時的に預かること |
| 5. 除雪 | 6. その他 () |

問13 地区の中での助け合いは、あなたにとって必要なものだと思いますか。(1つに○)

- | | | | | |
|------------|---------|--------------|-----------|-------------|
| 1. かなりそう思う | 2. そう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない | 5. 全くそう思わない |
|------------|---------|--------------|-----------|-------------|

問14 地区の中での助け合いは、あなたにとって居心地の良い関係だと思いますか。(1つに○)

- | | | | | |
|------------|---------|--------------|-----------|-------------|
| 1. かなりそう思う | 2. そう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない | 5. 全くそう思わない |
|------------|---------|--------------|-----------|-------------|

問15 地区の中での助け合いは、地域にとって必要なものだと思いますか。(1つに○)

- | | | | | |
|------------|---------|--------------|-----------|-------------|
| 1. かなりそう思う | 2. そう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない | 5. 全くそう思わない |
|------------|---------|--------------|-----------|-------------|

問16 あなたは、以下に示す①～④のような団体活動に、どのくらい積極的に参加していますか。(それぞれ1つに○)

	積極的に参加している	それほど積極的ではないが参加	仕方なく参加している	活動に参加していない
①地縁的な活動 (自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など)	4	3	2	1
②スポーツ・趣味・娯楽活動 (各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など)	4	3	2	1
③ボランティア・NPO・市民活動 (まちづくり、高齢者・障害者福祉、子育て支援、スポーツ指導、環境美化、防犯・防災、環境、国際協力、提言活動など)	4	3	2	1
④その他の団体・活動 (商工会・業種組合、宗教、政治など)	4	3	2	1

問17 あなたのお住まいの地域では、町内会・自治会や子ども会、老人会、消防団などの、「地縁団体」「地縁活動」は盛んだと感じますか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 非常に盛んであると思う
2. ある程度は行われていると思う
3. ほとんど活動は行われていないと思う
4. そういった地縁団体は存在しないと思う
5. わからない |
|--|

問18 次に示すあなたのまわりの人や組織を、「生活の問題や心配ごとを相談したり頼ったりする相手」として考えたとき、あなたの感覚にもっとも近いものをそれぞれ1つ選び、○をつけてください。

	大いに頼りになる	ある程度、頼りになる	どちらともいえない	あまり頼りにできない	全く頼りにできない
家族	5	4	3	2	1
親戚	5	4	3	2	1
友人・知人	5	4	3	2	1
近所の人々	5	4	3	2	1
仕事の同僚・同業者など	5	4	3	2	1
勤務先(会社等)	5	4	3	2	1
市役所・町村役場など	5	4	3	2	1
学校、病院等の公的機関など	5	4	3	2	1
警察や交番など	5	4	3	2	1
自治会等の地縁団体	5	4	3	2	1
ボランティア、NPO、市民活動の団体	5	4	3	2	1

4. 時間・お金の使い方について

問19 あなたの時間の使い方について教えてください。

19-1 仕事がある日の平均的な時間の使い方について教えてください。

(※仕事をしていない方は、17-2 へお進みください)

職場までの移動にかかる時間(片道)	約()時間 ()分
仕事をしている時間(休憩時間を含む)	約()時間 ()分
仕事中の休憩時間	約()時間 ()分
1日の睡眠時間	約()時間 ()分
仕事、睡眠以外の時間をどのように過ごしていますか。時間の長いものから順に1～5の順番を()に記入してください。6番目以降は記入不要です。	() 家事・庭の手入れ等 () 家族の送迎 () 介護 () 買い物 () 子育て・子の用事等 () ボランティア・NPO活動・地縁団体等の活動 () ちょっとした助け合い(子供を預かる、除雪など) () 親族・近所・友人等との交流 () 趣味・スポーツ・習い事など () 家族団らん(家族で過ごす時間) () 家でくつろぐ(主に自分のために使う時間) () その他(具体的に:)

19-2 仕事がない日(仕事をしていない方も含む)の平均的な時間の使い方について教えてください。

1日の睡眠時間	約()時間 ()分
睡眠以外の時間をどのように過ごしていますか。時間の長いものから順に 1~5 の順番を()に記入してください。6 番目以降は記入不要です。	() 家事・庭の手入れ等 () 家族の送迎 () 介護 () 買い物 () 子育て・子の用事等 () ボランティア・NPO 活動・地縁団体等の活動 () ちょっとした助け合い(子供を預かる、除雪など) () 親族・近所・友人等との交流 () 趣味・スポーツ・習い事など () 家族団らん(家族で過ごす時間) () 家でくつろぐ(主に自分のために使う時間) () その他(具体的に:)

19-3 時間の長さに関係なく、睡眠以外であなたにとってもっとも「価値のある時間・過ごし方」を 5 つまで選び、○をつけてください。

1. 収入を得るための仕事	2. 家事・庭の手入れ等
3. 家族の送迎	4. 介護
5. 買い物	6. 子育て・子の用事等
7. ボランティア・NPO 活動・地縁団体等の活動	8. ちょっとした助け合い(子供を預かる、除雪など)
9. 親族・近所・友人等との交流	10. 趣味・スポーツ・習い事など
11. 家族団らん(家族で過ごす時間)	12. 家でくつろぐ(主に自分のために使う時間)
13. その他(具体的に:)	

問20 あなたのいまの経済状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

	とても当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
日々暮らしていくのに困るほどお金が足りない	5	4	3	2	1
趣味や娯楽、生涯学習などにお金を費やすことができる	5	4	3	2	1
将来に備えた十分な貯蓄がある(もしくは、現在、貯蓄をしている)	5	4	3	2	1

20-1 地区コミュニティの中であなたのいまの位置づけとしてもっとも近いもの1つに○をつけてください。

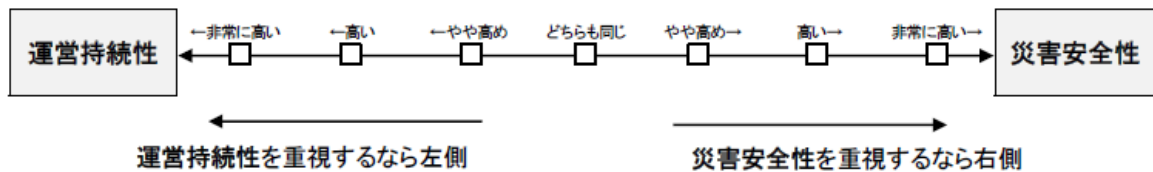
	高い	やや高い	平均的	やや低い	低い
様々な地区活動の中で自分が果たしている役割	5	4	3	2	1
自分と地区の人たちとの人間関係に対する満足度	5	4	3	2	1
地区の人々と比べたときの自分の経済レベル	5	4	3	2	1

5. 今後の集落づくりについて

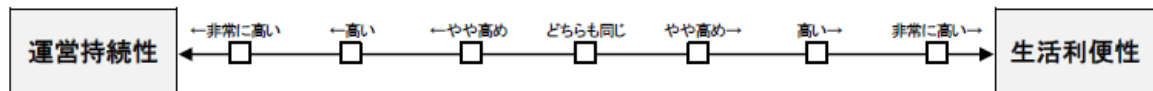
問21 今後の集落づくりにおいて、重視すべきことについてお答えください。

- 運営持続性** : 道路・水道・除雪などの行政サービスが継続されること
- 災害安全性** : 災害の発生が少ないこと、または防災対策が行われていること
- 生活利便性** : 病院・スーパーなどに近く利便性が確保されていること
- 生活継続性** : いままでの生活に大きな変化がなく継続されること

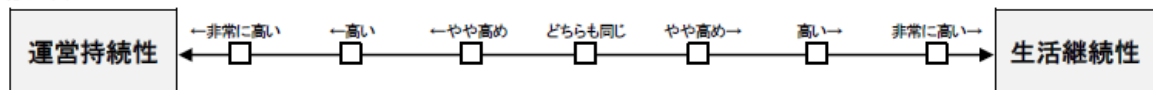
① 「運営持続性」と「災害安全性」の2つを比べたとき、どちらが重要度が高いと思いますか？
(該当するところに☑)



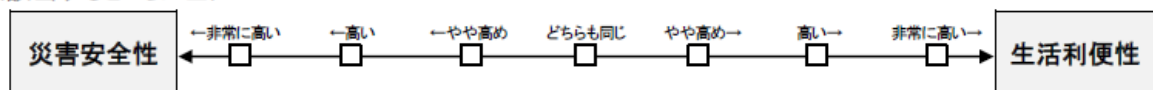
② 「運営持続性」と「生活利便性」の2つを比べたとき、どちらが重要度が高いと思いますか？
(該当するところに☑)



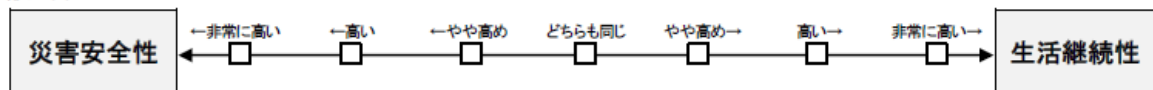
③ 「運営持続性」と「生活継続性」の2つを比べたとき、どちらが重要度が高いと思いますか？
(該当するところに☑)



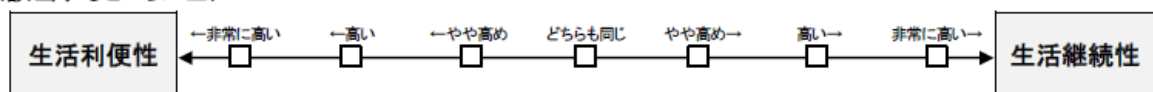
④ 「災害安全性」と「生活利便性」の2つを比べたとき、どちらが重要度が高いと思いますか？
(該当するところに☑)



⑤ 「災害安全性」と「生活継続性」の2つを比べたとき、どちらが重要度が高いと思いますか？
(該当するところに☑)



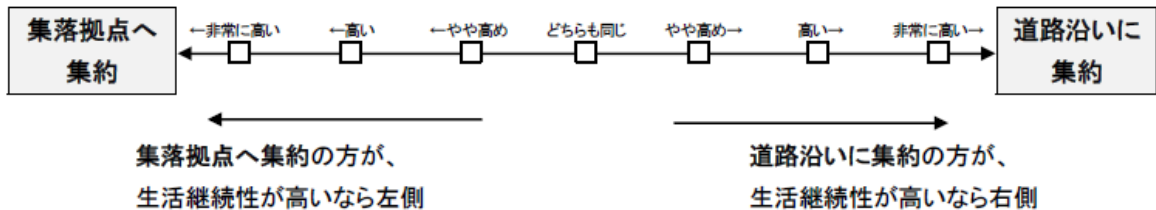
⑥ 「生活利便性」と「生活継続性」の2つを比べたとき、どちらが重要度が高いと思いますか？
(該当するところに☑)



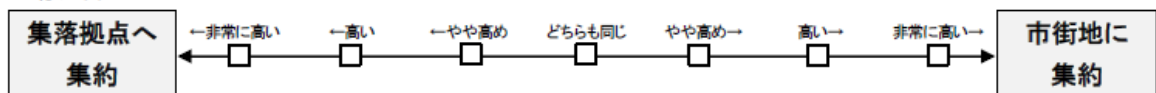
問22 生活継続性の観点から居住地・集落の集約化方法それぞれ 2 つを比較したときの評価についてお答えください。(※集約化にあたって自己負担はないと仮定してください)

集落拠点へ集約	: 集落内の小学校・郵便局などの拠点から 1~2km の範囲に集落内の住居を集約
道路沿いに集約	: 集落内の主な道路沿いに集落内の住居を集約
市街地に集約	: 役所・役場のある市街地に集落の住居を集約
現状維持	: 集約化せず、現状を維持

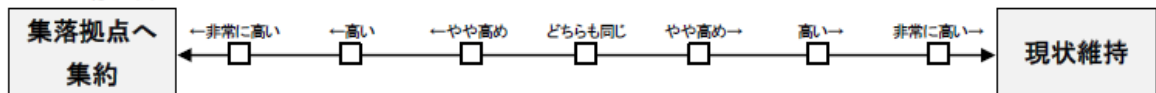
① 「集落拠点へ集約」と「道路沿いに集約」の 2 つを比べたとき、生活継続性が高いのはどちらだと思いますか？(該当するところに☑)



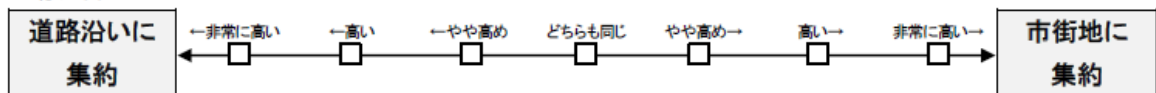
② 「集落拠点へ集約」と「市街地に集約」の 2 つを比べたとき、生活継続性が高いのはどちらだと思いますか？(該当するところに☑)



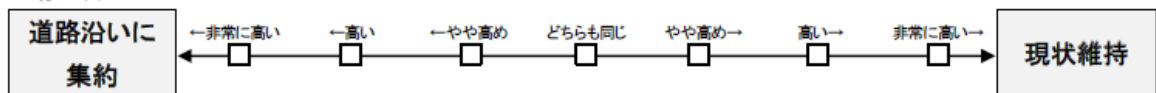
③ 「集落拠点へ集約」と「現状維持」の 2 つを比べたとき、生活継続性が高いのはどちらだと思いますか？(該当するところに☑)



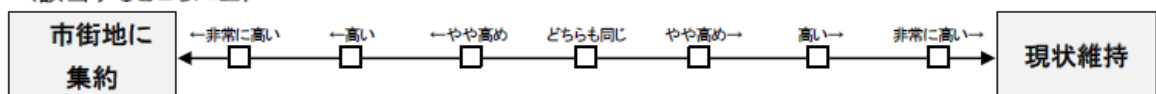
④ 「道路沿いに集約」と「市街地に集約」の 2 つを比べたとき、生活継続性が高いのはどちらだと思いますか？(該当するところに☑)



⑤ 「道路沿いに集約」と「現状維持」の 2 つを比べたとき、生活継続性が高いのはどちらだと思いますか？(該当するところに☑)



⑥ 「市街地に集約」と「現状維持」の 2 つを比べたとき、生活継続性が高いのはどちらだと思いますか？(該当するところに☑)



問23 国内では、自らの地域課題を自分たちで解決するため、住民自らが主体となって「地域運営組織」を結成する動きが見られ、例えば、以下のような取り組みを有償で行っているものがあります。もしもあなたの地域にも「地域運営組織」ができるとしたら、どのような機能・サービスを実施すべきだと思いますか。以下の1～11の中から、最大3つまで選んで○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|--------------------|----------------|
| 1. 子育てサロン・高齢者サロン | 2. カーシェアリング | 3. 空き家の管理 |
| 4. 地区内住民への有償交通 | 5. 冬だけ入居できる集合住宅 | 6. 敷地内の除雪支援 |
| 7. 地区内道路の除雪作業の受託 | 8. 地区内の環境整備の受託 | 9. 荷物の取り置きサービス |
| 10. 地区内の公共施設の指定管理 | 11. 買い物を自宅へお届けサービス | |

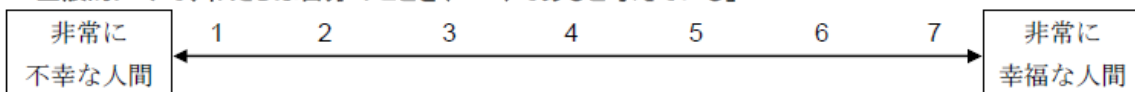
問24 あなたの地域を運営する地域運営組織ができたとしたら、あなたは主に、どのような形でかかわりたいと思いますか。（該当するものすべてに○）

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 運営側として参加したい | 2. 利用者としてかかわりたい |
| 3. 資金的な支援をしたい | 4. わからないが何らかの形でかかわりたい |
| 5. かかわりたいとは思わない | 6. すでにかかわっている |

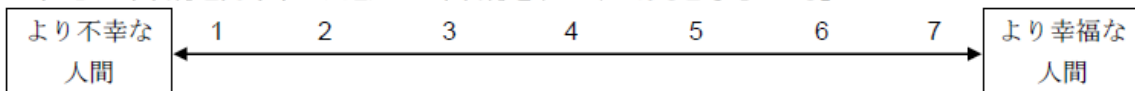
6. 今の暮らしに対する考え方

問25 次の4つの文章は、世界的に使われている幸福度を推定するための質問です。それぞれ1～7の段階で表したとき、あなたにもっともふさわしいと思う数字を1つ選んで○をつけてください。

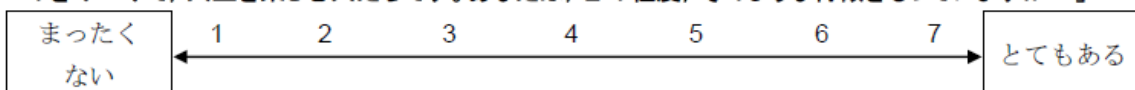
「一般的にみて、わたしは自分のことを()であると考えている」



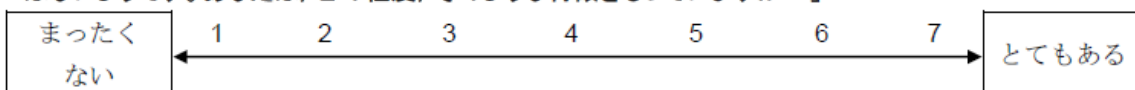
「わたしは、自分と同年輩の人と比べて、自分を()であると考えている」



「一般的にみて、非常に幸福な人たちがいます。この人たちは、どんな状況のなかでも、そこで最良のものを見つけて、人生を楽しむ人たちです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっていますか？」



「一般的にみて、非常に不幸な人たちがいます。この人たちは、はたから考えるよりも、まったく幸せではないようです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっていますか？」



アンケートは以上です。ご回答誠にありがとうございました。
その他ご意見・ご要望等ありましたら、空白部分にご記入ください。